

講義名	異文化間コミュニケーション論			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

#### 主題と概要

異文化間コミュニケーションは、1960年代初期のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、多種多様な文化と接触する機会が増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な学習活動を実施することで、異文化の背景と価値観、考え方もつなぐとの共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。このクラスでは異文化間コミュニケーションの基礎理論に関する講義とセルフスタディ型の学習活動の二つのアプローチを併せたオンデマンド型の授業を実施する。このコースは本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という目標を、異文化間コミュニケーションの理論と実践を通じて達成することを主眼としている。

#### 到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1)自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養える。
- (2)同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養える。
- (3)他者の意見を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養える。
- (4)グローバルな視点で物事を考えられる力を養える。
- (5)上記を踏まえ、本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という到達目標を達成する。

#### 提出課題

授業後に「学びと気づきの振り返りシート」を執筆し、提出する。登週の授業の準備としてその他の課題を提出する。

#### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

受講生が執筆した「学びと気づきの振り返りシート」を匿名で教員が紹介し、コメントする。その他の課題がある場合は、提出された内容を統括し、スライドで提示しながら解説する。

#### 評価の基準

(1) 課題（振り返りシート、その他）(60%)  
(2) 最終レポート試験 (40%)

\* 上記の両方に取り組みなければ、単位は取得できません。

#### 履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の成績評価基準の(1)と(2)すべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。  
(2) 講師が入室したときに教室にいない場合は連絡者となる。特別な理由がない限り遅刻厳禁。  
(3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定回数以上の欠席の場合、単位は認定されない。

\* 詳細は、第1回目の授業で知らせて、必ず出席すること。

#### 教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

#### 参考図書

.異文化トレーニング、	八代京子、ほか	三修社	3,190	978438401243-9
.異文化コミュニケーション-新・国際人への条件、	石井敬、ほか	有斐閣	3,200	9784641182554
.異文化コミュニケーション・キーワード、	古田暁、ほか	有斐閣双書	1,980	4641058741

#### その他

ハンドアウトおよびその他の資料は、適宜、「講義連絡」を通じて提示する。

#### 授業計画

回	授業計画
1	コースガイダンス；履修に際しての重要事項の説明とミニ講義（異文化間コミュニケーション発展の経緯）
2	コミュニケーションとは（1）
3	コミュニケーションとは（2）
4	コミュニケーションとは（3）
5	コミュニケーションとは（4）
6	文化とは（1）
7	文化とは（2）
8	文化とは（3）
9	文化とは（4）
10	文化とは（5）
11	知覚とカテゴリー化
12	マスメディアとステレオタイプ（1）
13	マスメディアとステレオタイプ（2）
14	倫理と文化摩擦（1）
15	倫理と文化摩擦（2）

#### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート		<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション		<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

#### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習、および、その週の課題に取り組み。（約2時間）  
復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約2時間）

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

異文化間コミュニケーションの理論を現代のグローバル社会で起きている問題に適用し、考察することにより、知識を知恵に転換することができる論理的思考力を身に付け、多様な視点の獲得により新しい価値を生み出す創造力を醸成する。また、国内外の人たちと円滑なコミュニケーションをとることができる素養を身につけることにより、卒業時に身につけておくべき専門・能力の育成につながる。これらの能力は経済学部生に求められる変わりゆく経営環境の動きに強い関心を持ち、企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができるための基礎知識の獲得、経済学部生に求められる人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる力の育成、そして、人間社会学部生に求められる現業社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てるといった理念の達成に役立つ。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された前回の授業に関する「振り返りシート」を教員が紹介し、コメントする。授業内容、その他に関する質問は随時、授業中や振り返りシートを通じて受け付け、授業中に回答する。

#### 実務経験の有無及び活用

#### 備考

このコースは一方的な講義のクラスではないため、受講生の貢献、かつ、積極的な参加を期待します。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席すること。その他、授業に関する連絡は「講義連絡」を通じて行うので必ず確認してください。